

1 今年度の取り組みと自己評価

【自己評価の基準】

A：十分達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：まったく達成できなかった

(1) 教育活動への取組と自己評価

取組目標	実施した方策	主な評価指標	自己評価
<p>学校経営・組織体制</p> <p><b>【1.組織化・危機管理】</b> 個々のコンプライアンスが学校改革レベルになる。それぞれの分掌業務が他の分掌に好影響を与える。◎<u>学校全体が互いに切磋し向上するチームになる。</u></p> <p><b>【2.特色化】</b> 引き続き特色ある教育活動を計画する。選択科目開講と課題研究の開始に伴う取組を形式知化し波及させる。TOKYOデジタルリーディングハイスクール研究指定校事業を成功させる。</p> <p><b>【3.人材育成、授業力向上、研修】</b> ラーニング・オーガナイザーを育成する。個々の授業力が高水準になる。個々の業務遂行力が高水準になる。</p> <p><b>【4.ライフ・ワーク・バランス】</b> 本校スタッフ全員が生徒のロールモデルになる。「チームがワークする」組織になる。</p> <p><b>【5.施設・設備の整備】</b> ○<u>学びやすい環境が作られている。安心安全が確保されている。居心地が良い空間になっている。</u></p> <p><b>【6.教育の情報化】</b> 個別最適化への支持が高い。種々の情報が活用しやすい。図書館の利用頻度が高い。</p>	<p>目標の明確化。自己申告制度の活用。ミドルリーダー研修・OJTの実施。学期ごとの分掌の実績と課題のまとめの実施。</p> <p>特色化PTによる提案。学校要覧の作成。教科・科目をはじめとする教育活動の取り組みについてまとめた紀要の作成。</p> <p>校内研修・OJTの実施。先進校視察の実施。国・都、民間の研修参加の促進。授業観察・授業見合の実施。</p> <p>イクボス宣言の実施。キャリア教育・産社の共有。年休取得日数・勤務時間制限目標の設置。業務改善（組織化・効率化・明確化）。学校業務支援員の活用。</p> <p>学習環境の整備・保全。仮設校舎の有効活用、本設校舎移設の実施とグラウンド改修工事の設計。居場所空間の確保。</p> <p>小台橋デジタルスクール構想の実施。校務支援システムの習熟。図書館活用指針の共有。</p>	<p>教員のコンプライアンスレベルが10段階のレベルが平均8.48。「私は、小台橋高校の3つのポリシーを生徒や保護者に説明している。」（教員71.4%） 「私は、関連の部署と協力して日常の教育活動に当たっている。」（教員95.2%）</p> <p>開校業務改善WG実施。「私は、学校経営計画に基づいて特色ある学校づくりに参画している。」（教員88.1%） 「小台橋高校は、特色のある学校だ。」（地域76.0%）</p> <p>「私は、分かりやすい授業をしている。」（教員95.2%） 「私の授業では、生徒は意欲的に学習に取り組んでいる。」（教員92.9%）</p> <p>「私は、仕事が充実していると感じている。」（教員59.5%） 年休平均取得率43.2%</p> <p>「小台橋高校の施設・設備は整備されている。」（保護者88.0%）</p> <p>「小台橋高校では、自分に合った授業が行われている。」（生徒85.1%） 校務支援システム研修の実施。図書館利用者数1日平均46.0人、9類以外の貸出割合が70.1%。</p>	<p><b>【達成度 B】</b></p> <p>学校経営計画を定量化しうる目標とし学校評価に反映させた。コンプライアンス水準が高水準であった。学校全体が関連部署と協力するチームとなった。</p> <p>開校業務改善WGを4回実施しデジタルリーディングハイスクール研究指定校の活動に取り組んだ。学校要覧を作成、研究紀要1号を刊行した。紀要2号テーマは「チャレンジスクールにおける授業の特色」</p> <p>校内研修を月1回実施し、生徒理解と対応力の向上に寄与できた。国・都、民間の研修参加を促進し、授業見合を教員1人につき平均2回実施した。</p> <p>休暇等の取得支援を行いライフ・ワーク・バランスの推進を図った。ICT支援員・副校長マネジメント支援員の活用を行った。</p> <p>本設工事竣工。生徒向け新校舎案内が大好評。3月末に移設完了。グラウンド改修により近隣苦情に対応予定。</p> <p>ICT支援員を活用し小台橋デジタルスクール構想を実現した。教務部と年次教務部が連携し校務支援システムの習熟が進んだ。図書館支援員を活用し特色ある図書館運営ができた。</p>

<p><b>【7.予算編成】</b>          予算執行が滞りなく適正である。予算編成作業が効率化できている。予算が効果的に編成されている。</p>	<p>令和5年度自律経営予算及び開校準備予算の執行。令和6年度自律経営予算及び初度調弁の予算化。</p>	<p>執行割合65%。</p>	<p>新校舎での業務や経年を考慮した予算編成の工夫ができた。初度調弁の落差金を十分に活用できなかった。</p>
<p>募集・広報（地域交流等）</p> <p><b>【8.ステークホルダーの活用】</b>          本校関係者の訪問数が増加する。<u>○地域の方の評価が高い。</u></p> <p><b>【9.式典】</b>          出席者の好評を得る。生徒の帰属意識が向上する。</p> <p><b>【10.募集広報活動】</b>          教育関係媒体で好意的に取り上げられる。教育関係者の訪問数が増加する。<u>◎説明会来場者が増加し入選倍率を確保する。</u></p> <p><b>【11.入学者選抜】</b>          選抜した受検者が本校に適合している。実施が事故なく適正である。</p>			<p><b>【達成度 A】</b></p> <p>学校運営連絡協議会を3回実施し学校評価を実施し協議員の理解を深めた。授業公開を2回実施した。</p> <p>入学式は都議2名、学運協7名の出席をいただき好評を得た。</p> <p>学校見学会・説明会を工夫し、追加説明会を実施するなどして多数の参加があった。大手新聞の連載記事等で認知度を高めた。広報活動の成果により定員増に関わらず入選応募倍率を確保できた。</p> <p>本校のアドミッションポリシーを反映した問題を工夫し、入学者のマッチングに寄与した。実施要項に従い事故なく適正に実施できた。</p>
<p>学習指導</p> <p><b>【12.教育課程の編成】</b>          現行教育課程を完成する。<u>○平成7年度実施に向け教育課程を作成する。全ての教職員が履修登録システムを理解し登録の指導ができる。</u></p> <p><b>【13.教務、教科書選定、履修・成績管理】</b>          教科書選定に遅滞がなく適正である。全ての教職員が統合型校務支援システムに習熟する。履修・学業成績・出欠席等における生徒の現状が把握できる。</p> <p><b>【14.学習指導】</b>  <u>◎教科・科目において学力向上を図る。体力テストで東京都平均とする。</u></p>			<p><b>【達成度 A】</b></p> <p>教科主任会を開催し、履修登録のシステムを錬成し全ての教員で履修登録の指導を行った。令和6年度の教育課程届、教科課程調書を作成した。</p> <p>教科書選定を遅滞なく実施した。成績会議を通して生徒の履修に係る現状と観点別評価の方法を共有することができた。</p> <p>各科目で適切な観点を設定して指標を決め学習前後に評価をすることで、学力向上の伸び率が定量的に報告する。体力テスト結果は東京都平均。</p> <p>各科目でルーブリックを作成し、それに基づいた学力の伸び率が定量的に報告された。学力向上の現状が共有できた。体力テストの結果は東京都平均近く良好であった。</p>

<p><b>進路指導</b></p> <p><b>【15.キャリア教育】</b>  ◎「小台橋モデル（課題研究を中心とした学びの体系）」が完成する。将来設計によって生徒の満足度が上昇する。各ゼミが活性化する。</p> <p><b>【16.進路指導】</b>  生徒のマッチングを重視する。総合選抜型入試に対応する。国立大学進学に対応する。</p> <p><b>【17. 学習評価、調査書・ポートフォリオ】</b>  生徒の成長を複数の方法で評価する。生徒の自己肯定感の上昇。</p>	<p>地域と連携した外部人材の活用。体験的な学習の実施。FD関係の学習計画の完成。</p> <p>上級学校体験、学問研究の実施。模試、夏季講習の実施。模試結果分析会、進路面談等の情報共有のシステム構築。</p> <p>観点別評価の実施。定性的評価活用方法の研究。キャリアパスポート活用。肯定的評価の積極的活用。</p>	<p>「私は、小台橋高校のキャリア教育（小台橋モデル）を生徒に説明している。」（教員64.3%）  「私は、自分で作る時間割に満足している。」（生徒89.7%）</p> <p>「私は、進路に関して有益な情報提供を行っている。」（教員73.8%）  夏季講習講座数18講座のべ265名参加。3月に校内模試実施。来年度卒業予定者の希望進路は大学47.5%、専門32.8%、就職13.1%、未定6.6%。</p> <p>全教員によるルーブリックの観点ごとの評価による伸び率の定量化。  「私は、学習面で自信がついた。」（生徒51.0%）</p>	<p><b>【達成度 B】</b></p> <p>職業人インタビューを実施。科目「ゼミ2」が発足し学習成果発表会でゼミごとの成果を発表した。時間割作成により将来像を描くことで生徒の満足度が高い。</p> <p>夏季休業中に上級学校体験、学問研究を実施。大学進学希望者のために講習、模試、面談を実施し対応した。</p> <p>年度当初に観点別評価のためのルーブリックを作成し、評価の観点によって学習評価を適正に実施することができた。</p>
<p><b>生活指導</b></p> <p><b>【18.生活指導】</b>  人間関係のトラブルが少ない。学校生活が安心・安全と言える。心の成長（生活習慣、協働資質、ビジネススキル）が促進されている。◎<u>学校生活の満足度、学校への定着率が高い。</u></p> <p><b>【19.体罰・いじめ・自殺への対応】</b>  交流プログラムが未然防止につながっている。道徳教育が充実する。</p>	<p>生活支援体制の再構築。OSLの周知・ルール違反未然防止の徹底、交通安全指導・マナー指導の実施。</p> <p>交流プログラムでの暴力・いじめ・自殺の未然防止。道徳の年間ホームルーム指導計画への位置づけ。人間と社会の設計。</p>	<p>特別指導件数28件  「私は、学校生活のルールや社会のマナーを守っている。（生徒93.1%）  「私は、安全で安心な学校生活を送っている。（生徒90.4%）  私は、精神面で成長した。（生徒71.6%）  「小台橋高校での生活に満足している。」（生徒87.7%）  「小台橋高校に入学してよかった。」（生徒90.4%）  学校定着率73%。</p> <p>体罰、いじめ、自殺全て0件。  「私は、体罰や暴言を無くすための取り組みをしている。」（教員100%）  「私は、いじめを無くすための取り組みをしている。」（教員100%）</p>	<p><b>【達成度 B】</b></p> <p>巡回、集会、担任の丁寧な指導を通して人間関係トラブルの未然防止につながった。様々な方策によりTPOに合わせた学校生活ができ、生徒の満足度も高い。</p> <p>体罰・いじめアンケートの調査で未解決の案件なし。生徒の事前事後アンケートの結果より交流プログラムが効果的に未然防止につながった。</p>
<p><b>特別活動・部活動</b></p> <p><b>【20.特別活動の実施】</b>  ◎<u>生徒のチームワークができてきている。ホームルームが居場所になる。</u>生徒会活動が活性化。生徒の自助・共助・公助の意識を高めている。</p>	<p>各行事の実施要項作成。校内美化活動の取組推進。年間ホームルーム計画作成。生徒会活動における安全活動や地域貢献活動の実施。避難訓練・防災教育の実施。</p>	<p>行事満足度スポレク祭95%、芽吹祭91%。地域貢献活動5回。避難訓練4回。  「学校行事やホームルーム活動を通じて社会性を身に付けている。」（生徒78.2%）  「私は、地域との連携に関わっている。」（生徒31.0%）  「小台橋高校は、事故や災害時等の対応・対策を行っている。」（生徒87.4%）。</p>	<p><b>【達成度 B】</b></p> <p>修学旅行の成功。スポレク祭は外部施設、文化祭は仮設校舎で実施。ボランティアで地域清掃に5回参加した。避難訓練や講話においては生徒の意識の高さが高評価。</p>

<p><b>【21.課外活動の実施】</b> 校内で授業以外に学習する生徒が増加する。外部交流や活躍をする部活動が出現する。ボランティア・勤労者が増加する。</p>	<p>自習室やゼミ室など学習の場の提供運営。オンライン学習の活用促進。部活動年間指導計画の作成。ボランティア・就職支援策。</p>	<p>部活動加入率31.4%。 全国大会出場：卓球部ベスト8。</p>	<p>自習室の提供ができなかった。部活動は低調だったが、卓球部が全国大会に出場しベスト8となった。</p>
<p>健康づくり</p> <p><b>【22.健康・保健指導】</b> 生徒が痛み、悩み、迷い、困り度に応じて相談ができる。医療・福祉・警察等隣接領域や外部と連携しリファーできる。◎教育相談的な課題の最終解決がなされる。</p> <p>校内のセンター的機能としての教育相談分掌の構築。年次ワーカー業務の確立。外部連携体制の整備。見立てに基づき計画し解決するための教育相談委員会の実施。校内別室指導推進事業の活用。「校内居場所カフェ」の設置準備。交流スキル・レジリエンスの向上推進。</p> <p>「先生方は、生徒の話をよく聞いてくれる。」（生徒90.4%） 「小台橋高校は、悩みや迷いが生じたときに支援を行ってくれる。」（生徒83.9%） 教育相談委員会31回開催。相談件数はSC263回、YSW55回、特別支援心理士43回、精神科学校医13回。</p>			<p><b>【達成度 B】</b> 教育相談部がセンター的機能をはたす仕組みを作った。校内での情報共有を行い、医療・福祉・警察等隣接領域や外部と綿密に連携しおおむね課題を解決した。</p>

注) アンケート項目と数値（「私は…している」（○○・●%））は学校評価アンケートより。ただし教員の数字は正規教員のみを抽出。

(2) 重点目標への取組と自己評価

取組	自己評価
<p>重点項目</p> <p>(ア) 学校経営 ◎学校全体が互いに切磋し向上するチームになる。 ○学びやすい環境が作られている。</p> <p>(イ) 募集広報 ○地域の方の評価が高い。 ◎説明会来場者が増加し入選倍率を確保する。</p> <p>(ウ) 学習指導 ○平成7年度実施に向け教育課程を作成する。 ◎教科・科目において学力向上を図る。</p> <p>(エ) 進路指導 ◎「小台橋モデル（課題研究を中心とした学びの体系）」が完成する。</p> <p>(オ) 生活指導 ◎学校生活の満足度、学校への定着率が高い。</p> <p>(カ) 特活その他 ○生徒のチームワークができている。 ◎教育相談的な課題の最終解決がなされる。</p>	<p><b>【達成度 B】</b> ほぼ達成</p> <p>達成</p> <p>達成</p> <p>ほぼ達成</p> <p>ほぼ達成</p> <p>ほぼ達成</p>

2 次年度以降の課題と対応策

課題	対応策
<p>(ア) 学校経営</p> <p>①組織の拡大に伴う体制づくり。個々のコンプライアンスを学校改革レベルとし、それぞれの分掌業務が他の分掌に好影響を与え、学校全体が互いに切磋し向上するチームになること。</p> <p>②教員をラーニング・オーガナイザーとして育成し、個々の授業力と業務遂行力を高水準にすること。一方、ハード</p>	<p>①次期中期計画の策定と実施。自己申告制度の活用を図る。ミドルリーダー研修・OJTを実施し、学期ごとの分掌の実績と課題のまとめを実施する。</p> <p>②研修やOJTにより意識改革を行い経営的視点からの業務遂行を促す。また、年休取得日数・勤務時間制限</p>

<p>ワークにおいてもライフ・ワーク・バランスを確保してスタッフ全員が生徒のロールモデルになること。</p> <p>③学校が、学びやすく、安心安全の確保された居心地の良い空間になっていること。図書館の利用頻度を向上させること。</p> <p>④学校運営連絡協議会設置や地域との情報交換など連携強化に努め、ステークホルダーの評価を高めること。</p>	<p>目標の設置、学校業務支援員を積極的に活用する。</p> <p>③学習環境の整備・保全、本設校舎移設後の活用とグランド改修工事の設計、居場所空間の確保。図書館活用指針の共有。</p> <p>④学校運営連絡協議会等における意見交換及び学校評価、授業公開や地域貢献活動を実施する。</p>
<p>(イ) 募集広報</p> <p>教育関係媒体で好意的に取り上げられるようになり、教育関係者の視察訪問数が増加すること。新校舎での募集活動の展開を工夫し、最終的には説明会来場者が増加し、入選倍率を維持すること。</p>	<p>計画的に学校説明会を実施し、中学校・適応教室・フリースクール・塾等を訪問する。WebやSNS、オンラインを活用した広報を展開し広告記事を配信する。また、学習成果を広報する。</p>
<p>(ウ) 学習指導</p> <p>教育課程の改善を目指すこと。教職員が課題研究を中心とした学びの体系を理解し説明できるようにすること。各教科・科目においてルーブリックの完成度を高め、観点に応じた学力向上を図ること。</p>	<p>教科主任会を定期的開催する。指導目標の共有。学習計画作成と「多様で柔軟な教育活動」の実践を重ね、指導と評価を一体化させ、生徒の学力を向上させる。</p>
<p>(エ) 進路指導</p> <p>履修登録を活用し将来設計によって生徒の満足度が上昇すること。各ゼミが活性化すること。生徒のマッチングを重視して大学進学をはじめ卒業後の進路決定に対応すること。</p>	<p>地域と連携した外部人材の活用。体験的な学習の実施。FD関係の学習計画の完成。上級学校体験、学問研究の実施。模試、夏季講習の実施。模試結果分析会、進路面談等の情報共有のシステム構築。</p>
<p>(オ) 生活指導</p> <p>学校生活が安心・安全で、心の成長が促進され、人間関係のトラブルが少ないこと。その結果、学校生活の満足度、学校への定着率が高いこと。</p>	<p>生活支援体制の再構築。OSLの周知・ルール違反未然防止の徹底、交通安全指導・マナー指導の実施。</p>
<p>(カ) 特別活動・部活動</p> <p>生徒のチームワークができ、ホームルームが居場所になること。新校舎での行事の計画を工夫し実施すること。生徒会活動・ボランティア活動・課外活動が活性化すること。校内で授業以外に学習する生徒が増加すること。</p>	<p>各行事、ホームルーム活動、校内美化活動を計画的に実施する。自習室やゼミ室など学習の場の提供運営。オンライン学習の活用促進。</p>
<p>(キ) 健康づくり</p> <p>生徒が痛み、悩み、迷い、困り度に応じて相談ができること。医療・福祉・警察等隣接領域にリファーできること。外部と連携して課題を最終解決できること。</p>	<p>教育相談部を校内のセンター的機能とする。外部連携体制の整備。教育相談委員会の実施。交流スキル・レジリエンスの向上推進。各種指定事業の活用。</p>